



世界の人々と
共に生きるために
JOCSの
保健医療活動に
ご協力ください。

JOYJOYプロジェクト
の給食の時間。給食
当番の黒い帽子をかぶ
ったバドン

2024

冬期募金にご協力ください

^{mtc}
JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

バドン、その後

バングラデシュ派遣ワーカー 岩本直美(看護師)

知的な障がいのあるバドンのことを皆様にお話したのは2年ほど前のことだ(2022年冬期募金趣意書)。裸で走り回るその様子は、まるで小猿のようであった。父親は薬物中毒で母親も軽度の知的障がいがあり、放浪するこの家族を助けてくれたのが今の大家さんご夫婦だった。

バドンの家族の暮らしが守られるようにと、何らかの公的支援を受給できるよう当初は奔走した。バドンの出生届をつくり、母子双方に障がい者手当が支給されるよう努力した。しかし障がい者手帳を取得できたのはバドンだけであった。県知事の口添えで関連の行政担当者にこの家族の支援を訴えたが、各部署をたらい回しにされただけで功を奏しなかった。

バドンの将来を考え、障がい者手当はバドンの名義で預金することになった。18歳になるまでは引き出せない決まりだ。バドンの両親も納得し、皆がそろって銀行にでかけるという日の朝、父親が行方不明とな



たわわに実ったジャックフルーツの木の前で。左からバドンの父親、バドン、バドンの兄、母親

った。知人の事業所からお金を盗み逃走したのだ。近隣や親戚からは「なぜこの家族を追い出さないのか」と大家さんご夫婦に山のような圧力がかかったが、大家さんは一切動じなかった。数日後バドンの父親はなぜかJOYJOYプロジェクトのデイケアセンターに現れた。しょげる父親に同伴し大家さん宅へ送り届けた。バドンの障がい者手当は、結局父親が盗んだお金の返済に充てられた。

何とか家族の収入源を確保するために、今度はバドンの母親ができる仕事を考えた。そしてデイケアセンターに大鍋2個の昼食を電動三輪車で運ぶ仕事をしてもらうことにした。そのために大家さんの妻に昼食を自宅で調理していただけるようお願いした。「し

たことないからね」と言いつつも、大家さんの妻の料理は子どもたちの口に合ったおいしいものであった。調理後、大家さんの妻が電動三輪車呼び値段交渉し、バドンの母親が乗車し大鍋の蓋を押さえJOYJOYプロジェクトまで運んでくる。お出かけ好きのバドンの母親はこの仕事が気に入った。手当はわずかだが、それで家賃を支払うことができるようになった。思いがけない効果は、バドンの母親が調理に興味を持つようになり、待っている間下ごしらえなどを手伝うようになったことだ。

バドンの母親は、頭に血が上ると誰も手が付けられなくなるほど狂乱してしまう。それでもバドンは母親を慕っている。バドンは限りなく優しい子どもで、人の痛みに

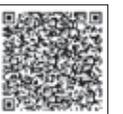
昼食を入れた大鍋を持つバドンの母親



気づくバドンの感性に私は神様に近いものを感じ、不思議に思うことがある。両親と不安定な兄を将来的に支えるのは、弟であるこのバドンだと私たちは思っている。今はまだ10歳ほどだが物事を理解できる力があり、大人になったとき簡単な作業はできるようになるのではと思っている。今は自分のことは自分でできるように、毎日洗濯の練習をしている。母親に教えるよりも、バドンが習得する方が早いと思われたからだ。そして言葉の出ないバドンのためにコミュニケーションの手段を模索している。バドンは思うようにならないと必ず他児に暴力を振るってしまうのだ。無理もないと思いつつ、少しずつ自制できる力がつくようにと願っている。

公的支援が皆無に近いバングラデシュで、バドンとその家族が守られているのは、この大家さんご夫婦と皆様のお祈りとお支えのおかげである。この壊れやすいのちにJOYJOYプロジェクトはこれからも寄り添っていきたくと心から願う。

JOYJOYプロジェクトの動画はこちらから



バイクに乗せてもらい笑顔を見せるバドン(右から2人目)



JOYJOYプロジェクトとは

バングラデシュ・ディナジプールで実施されている、障がいのある子どもたちとその家族を支援するプロジェクトです。岩本直美ワーカーは、プロジェクトのディレクターとして2022年に派遣されました。

障がいのある子どもたちのためのデイケアサービスや家庭訪問を通して、自助努力を強いられている家庭の支援、障がいのある人に対する偏見や社会的差別の軽減を目指しています。

ご支援くださっている方々の声

JOYJOYプロジェクトの報告から、一人ひとりの困難に丁寧に接することで道が開けるということを教えられました。支援をする人と受ける人、両方の前を向く姿勢に力をもらえます。(40代会員)

ご寄付の方法

同封の払込取扱票をお使いください。
または次の口座にお振り込みください。

郵便振替

ゆうちょ銀行

口座：日本キリスト教海外医療協会の
募金部 00170-3-13986

銀行振込

三井住友銀行 高田馬場支店

日本キリスト教海外医療協会の
口座番号：普通 4186361

銀行からのお振込やネットバンキングでは、JOCSには口座名義人の名前しか通知されません。ご送金の際には、お名前、ご住所、電話番号を、メール(info@jocs.or.jp)またはFAX、郵送で東京事務局(下部)まで必ずお知らせください。

クレジットカード

1,000円から

ホームページ：<https://www.jocs.or.jp/support/bokin>

スマホはこちら



ご入会のお願い

JOCSのサポート 会員になってください

同封の払込票の「入会します」にを記入ください。
サポート会員には、会報誌『みんなで生きる』(隔月発行)をお届けします。

公益社団法人としてのJOCSを構成する「社員会員」という制度もあります。社員会員をご希望の方は、払込票の余白に「社員会員」とご記入ください。

※社員会員は、総会の議決権、理事の選挙権及び被選挙権を持ちます。
※社員会費は寄付金控除の対象とはなりませんので、ご了承ください。
※社員会員の名簿は「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に基づき、内閣府に提出します。

🌿 当会へのご寄付・サポート会員の会費は、特定寄付金に該当し、寄付金控除を受けることができます。

🌿 遺産のご寄付・相続財産のご寄付に関するパンフレットがございます。ご希望の方は、東京事務局までご連絡ください。

* 当会へのご寄付、会費は8割が事業費、2割が管理費として使われます。

個人情報の取り扱いについて 当会は、皆様の個人情報を厳重に管理・保護するとともに、その取扱いにつきまして「個人情報の保護に関する法律」及び関連する法令その他の規範を遵守し、プライバシーの保護をおこなっています。詳しくはJOCSホームページの「プライバシーポリシー」(<https://www.jocs.or.jp/privacy>)をご覧ください。

JOCS役員 (五十音順)

| | |
|------|--|
| 会 長 | 畑野研太郎 (医師) |
| 常務理事 | 大友宣 (医師) |
| 理 事 | 植松功 (自営) 小宅泰郎 (医師) 杉村恵子 (看護師) 中髙裕一 (高校校長) 名取智子 (JOCS事務局次長) 東岡牧 (看護師) |
| | 平本実 (社会福祉法人役員兼職員) 森田隆 (JOCS事務局長) |
| 監 事 | 榛木恵子 (団体役員) 渡部芳彦 (歯科医師、大学教員) |

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

ホームページ <https://www.jocs.or.jp> E-mail info@jocs.or.jp

東京事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-51 電話：03-3208-2416 FAX:03-3232-6922

関西事務局 〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 大阪聖パウロ教会3階 電話：06-6359-7277 FAX:06-6359-7278